

菅原精機株式会社

第50期 環境活動レポート

(対象期間:2015年 8月～2016年 7月)

発行日 2016年8月24日

□ごあいさつ

長年にわたり、つねに時代の最先端ニーズに対応する高精度の金型製品を生み出してきた菅原精機株式会社。その技術力は、精密機械や電子部品など世界が注目する日本のモノ作りの現場を根底で支えてきたといえます。そしてこの度、従来からの環境活動をさらに積極的に展開すべく、下記の環境方針を掲げ「地球環境にやさしい会社」作りを目指し全社一丸となって取り組んできました。成果を環境レポートにまとめましたのでご高覧いただきますようお願いいたします。

菅原精機株式会社
代表取締役社長 菅原 尚也

環境方針

<環境経営方針>

菅原精機株式会社は、粉末成形用精密金型製作メーカーとして、ますます深刻化する地球温暖化への対応や、有限である資源の有効利用が人類共通の重要課題と考えています。当社の金型製品製造等の事業活動における環境負荷への低減や、当社の金型製品が社会に貢献できるよう、全社一丸となって自主的、積極的に、環境への取り組みを進めてまいります。

<環境保全への行動指針>

- 1、具体的に次のことに取り組みます。
 - ①、電力・燃料の消費に伴う二酸化炭素排出量の削減。
 - ②、使用原材料の省資源、廃棄物の3R(減量、再使用、再生利用)の推進。
 - ③、水資源の節水
 - ④、化学物質の適正な管理の定期的確認
 - ⑤、事務用品のグリーン購入
 - ⑥、環境配慮製品用金型の受注

これらについて環境目標・活動計画を定め、定期的に見直しを行い、継続的に改善に努めます

- 2、環境関連法規制や当社が約束した事を遵守します。
- 3、社員一人ひとりが環境問題に関する認識を深め、周辺地域の環境保全活動に取り組めます。
- 4、この環境方針は、全社員に周知徹底するとともに、社外にも開示します。

制定日： 2007年8月1日

改定日： 2010年8月1日

代表取締役社長 菅原 尚也

□組織の概要

- (1) 名称及び代表者名
菅原精機株式会社
代表取締役社長 菅原 尚也
- (2) 所在地
本 社 京都府京都市山科区柳辻西漬町14番地
無人倉庫 京都府京都市山科区柳辻西漬町8番地
- (3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先
責任者 総務課長 船越 勝 TEL：075-581-7121
担当者 総務部 船越 勝 TEL：075-581-7121
- (4) 事業内容
粉末成形用精密金型製造・粉末成形用ロータリープレス機製作
- (5) 事業の規模
製品出荷額 17.8億円 (2015年8月～2016年7月)
- | | 本社 | 工場棟 | 無人倉庫 | 合計 |
|-------|---------------------|-------------------|-------------------|---------------------|
| 従業員 | 85名 | 8名 | 無人 | 93名 |
| 延べ床面積 | 3,002m ² | 222m ² | 434m ² | 3,658m ² |
- (6) 事業年度 8月～7月

□認証・登録の対象組織・活動

登録組織名： 菅原精機株式会社
 関連事業所： 無
 対象外： 無
 活動： 粉末成形用精密金型製造・粉末成形用ロータリープレス機製作

□主な環境負荷の実績

項目	単位	2013年 (基準年度)	2014年度	2015年度
二酸化炭素総排出量	kg-CO ₂	627,958	629,873	614,936
二酸化炭素排出係数kg-CO ₂ /kWh	0.509kg			
廃棄物排出量	トン	9.2	10.5	10.9
一般廃棄物量排出量	トン	3.5	3.8	3.4
産業廃棄物排出量	トン	5.7	6.7	7.5
総排水量	m ³	1,432	1,522	1,626

[注]二酸化炭素排出量には「電気、都市ガス、ガソリン」が含まれる。

[注]産業廃棄物排出量7.5トン中6.8トンは再生利用です。一般廃棄物量排出量3.4トンの内1.3トンは再生利用です。

[注]二酸化炭素排出係数は0.509を使用

□環境目標及びその実績

項目	年度	2013年	2015年		2016年	2017年
		(基準年度)	(目標)	(実績)	(目標) 基準年度比	(目標) 基準年度比
電力の二酸化炭素排出量削減	kg-CO ₂ 基準年度	621,143	645,989 104.0%	610,179 [98.2%]	591,875 95.3%	585,956 94.3%
ガソリンの二酸化炭素排出量削減	kg-CO ₂ 基準年度	4,636	4,961 107.0%	2,577 [55.6%]	2,495 53.8%	2,470 53.3%
上記二酸化炭素排出量合計	kg-CO ₂	625,779	650,950	612,756	594,370	588,426
一般廃棄物の削減	kg 基準年度	2,124	2,122 99.9%	2,103 [99.0%]	2,100 98.9%	2,080 97.9%
産業廃棄物(廃油等)の削減	kg 基準年度					
節水	m ³ 基準年度	1,432	1,578 110.2%	1,626 [113.5%]	1,608 112.3%	1,592 111.2%
事務用品のグリーン購入	千円 基準年度	265	238 89.8%	274 [103.4%]	60.0%	60.0%
省エネ、省資源の提案活動	基準年度	2	5	29	60	60

産業廃棄物は、通常全量再生利用ですが、再利用不可について約5年に一度不定期的に廃棄処分をしています。よって目標及びその実績表に記入していません。また、一般廃棄物の再利用分については、目標項目より除いています。

(注1)2015年度より基準年度を2013年度に変更しました。2016年度は基準年を2015年に変更します。

(注2)2016年度よりグリーン購入の目標は購入金額から購入比率に変更します。

□環境活動の取り組み計画と評価

◎よくできた ○ままできた △あまりできなかった ×全くできなかった

取り組み計画	達成状況	評価（結果と今後の方向）
電力の削減		○目標達成
・冷房温度24℃設定とクールビズ運動	△	空調設備の更新、照明のLED化および、室温管理の徹底により目標を達成した。老朽化した空調等も残されており計画的に更新していくとともに、節電意識の向上を図りより一層使用電力の削減を図っていきたい。
・冷房時室温28℃以上	△	
・暖房温度の20℃設定とウォームビズ運動	◎	
・昼休みの消灯	◎	
・不要照明の消灯	◎	
・生産設備のムダ防止	○	
・圧縮空気洩れの定期点検・修理	○	
自動車燃料の削減		○目標達成
・アイドリングストップ	◎	営業車両2台中1台をハイブリッド車に乗り換えた効果が大きく、基準年対比使用量は44%減少となり、目標を大きくクリアした。引き続きエコドライブをもって徹底し自動車燃料の削減を行っていく。
・急加速の抑制	○	
・冷房の控えめ使用	○	
・買換え時は燃費マークを優先する	○	
一般廃棄物の削減		○目標達成
・ゴミの見える化推進	◎	ゴミの分別、リサイクルの徹底により、生産量が増大し厳しい状況ながら目標達成できた。引き続き分別、リサイクルの徹底を呼びかけていく。
・裏紙使用	◎	
・古紙のリサイクル化	◎	
産業廃棄物（廃油等）の削減		評価しない
評価できない		廃油は無く評価せず。
水道水の削減		×目標未達成
・手洗い水量の適正化	○	消防設備の漏水箇所の修理で使用量は減少傾向にあるものの、受注増加に伴う残業と休日出勤でトイレ、手洗い回数が増加したことにより目標は未達に終わった。節水意識の向上を図るため、普段から節水について呼びかけていく。
・節水シールの貼り付けとポスター掲示	○	
事務用品のグリーン購入		○目標達成
・グリーン購入対象品目調査	◎	受注増加に伴いコピー用紙の使用が大量に増え、8月に一括購入した結果目標をクリアできた。来期も引続きグリーン購入に努める。目標は金額から比率に変更する。
・グリーン購入比率調査	◎	
省エネ・省資源の提案活動		○目標達成
・朝礼にてアナウンスを繰り返す。	◎	期初より提案制度の活用を積極的にアナウンスした結果、目標をクリアする事ができた。来期は提案制度の改革を行い提出しやすい仕組みとし、提案制度の活性化を図っていく。
地域貢献活動		○目標達成
・山科川の清掃活動に参加	◎	年1回の山科川の清掃活動に参加、地元企業とともに協力し合って環境配慮活動を行っている。毎週月曜日の会社周辺の清掃も徹底している。継続して行っていく。

□環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りである。

適用される法規制	適用される事項（施設・物質・事業活動等）	評価
廃棄物処理法	一般廃棄物、産業廃棄物（金属屑、廃プラ、廃ガラス、廃油等）	遵法
騒音・振動規制法	空気圧縮機	遵法
消防法	加工油、灯油、潤滑油、アセトン、防錆油、防火体制	遵法
フロン排出抑制法	業務用空調機の3ヶ月に一度の自主点検	遵法

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されていました。

なお、違反、訴訟等も過去3年間ありませんでした。

□代表者による全体の評価と見直し

電力の削減については老朽化した空調機の更新や照明設備のLED化の推進、節電意識の向上で目標を達成した。自動車燃料の削減については営業車両2台のうち1台をハイブリッド車に乗り換えた効果は大きく大幅な削減となった。一般廃棄物の削減については班別管理の徹底でゴミ排出の見える化を図っており、厳しい目標ながら達成することが出来た。水道水の削減については、消防設備で漏水箇所があり修理を実施、使用量は減少傾向にあるものの、目標はとられなかった。節水意識のより一層の徹底が望まれる。事務用品のグリーン購入は目標達成した。来期も引き続きエコ商品購入を心がけるが、目標自体を購入金額とせず購入比率に変更する。来期は「省エネ、省資源も提案活動」の推進に注力し、提案制度の抜本的改革を実施する予定。環境配慮活動については、毎週月曜日の会社周辺のゴミ拾い（2名）は定着している。引き続き地域の環境配慮活動を継続していく。

□環境活動の紹介

山科川の清掃活動への参加